

# 病害虫対策の基本

花を育てていて一番心配なのが、病気や害虫です。  
放っておくと枯れてしまうので、早めの処置で大切な花を守りましょう。

## 病害虫予防は管理から

植物も人間と同じように、弱っていると病気や害虫にかかりやすくなります。元気に育てることが、病害虫予防の第一歩です。まずは日頃の管理に気を付けて、病害虫が発生しにくい環境で育てましょう。

### 水やり



水は、多すぎても少なすぎても株を弱らせる原因になります。土の表面が乾いたら、たっぷりを与えて下さい。気温が高くなる日中に水を与えると、土が蒸れて根腐れする場合がありますので、午前中に行うのがベストです。

### 花がら摘み



花がらは、こまめに取り除きます。放置しておくと、見栄えが悪くなるだけでなく、腐食し、カビが生えてきます。また、花の種が付くと養分を取られてしまうため、株が弱ってしまいます。

### 通気性を良くする



狭いスペースに多くの花を植えている場合は、通気性が悪くなりカビ性の病気（うどんこ病、灰色カビ病）にかかりやすくなります。混み合っている部分は切り取りましょう。また、鉢の間隔も広くしましょう。

## 害虫発見！すぐに駆除を

植物を見ると、葉が食害されていたり、茎や葉の裏に害虫が寄生していませんか。害虫を見つけたら、すぐに駆除しましょう。害虫の種類を特定できる場合は、専用の殺虫剤を使用します。判別がつかない場合は、多種類の害虫に効くオルトランを使用すると良いでしょう。散布すると殺虫成分が植物内に移行し、植物自体が殺虫効果を持つようになるため、害虫退治だけでなく予防薬としても使用できます。

オルトランには様々な種類がありますが、ベランダ園芸やガーデニングの初心者には、粒剤が便利です。株元に撒くだけなので手が汚れず、しかも風で飛ばされることがないので、周囲に迷惑をかけることはありません。

マリーゴールドは、害虫（特にセンチュウ）を寄せつけない成分を分泌するため、草花と一緒に植えると害虫駆除の効果がありません。



## 病気？害虫？迷ったら殺虫殺菌剤

葉や花、茎などにカビが生えたり、黒や褐色の斑点が出来たりなどの症状が出ていたら、植物が病気になっています。殺菌剤は予防薬なので、病気の部分に散布したとしても、元には戻りません。病気の部分を取り、被害が広がるのを防ぐために殺菌剤を散布します。

### ■殺菌剤

植物の病気の原因のほとんどはカビです。ダイセンはカビによる病気に効果があるため、予防の散布をおすすめします。庭木や花にはマンネブダイセンを、野菜や果樹にはジマンダイセンを使用すると良いでしょう。

### ■農薬散布これだけは守ろう

農薬を散布する場合は、近所への影響を考慮して風のない時を選んで下さい。また、長袖、マスク、メガネ、手袋などを着用し、農薬が肌につかないように注意しましょう。回数を多く与えたり、濃い液を散布した方が病害虫に効果があると勘違いしていませんか。被害（葉が変色したり枯れたりする）が発生する恐れがあります。

しかし、植物の症状を見ても病気なのか害虫の被害なのか分からない場合がほとんどです。そんな時は、殺虫殺菌剤を使うと便利です。殺虫と殺菌の効果が得られるため、ベランダ園芸や鉢数が少ない場合はもちろん、庭や花壇の応急処置用に殺虫・殺菌スプレーが1本あると安心です。

### ■殺虫・殺菌剤

近づけてスプレーすると冷害を起こしやすいので、30~40センチ離し散布して下さい。

## インパチェンスは暑さに弱い

インパチェンスは、5～10月の間に次々と花を咲かせますが、真夏の高温や直射日光に非常に弱い花です。「花が咲かなくなった」「しおれてきた」といった場合はネットなどで光を遮ったり、日陰の涼しい場所に移動させると元気を取り戻し、花を咲かせます。日陰でも丈夫に育つ花なので、花の少ない場所に植えてみてはいかがでしょうか。

### Howto<sup>なび</sup>

動画でもっとわかりやすく!  
暮らしに関するHowto情報を動画で配信中。



### How To 情報

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

